



出会う

～新しい自分に、仲間に・・・～

校長 桃井 陽子

春爛漫、見つける喜びに満ちあふれているのが、春という季節ではないでしょうか。春の暖かさや風を体中で感じ、様々な草木の芽吹きや、花壇に咲く色とりどりのパンジーやビオラ、水仙などの花々、鳥のさえずりを見つけ、歩きながら自然と顔がほころび、思わず深呼吸がしたくなります。一本一本の樹木につけられた手作りの樹名板からは、木々を大切にしようとする手のぬくもりを感じました。

4月1日付で、平川一博校長の後任として着任いたしました。微力ながら、これまでの原小学校の伝統を重んじ、学校経営に励んで参る所存です。その重責に心引き締まる思いがいたします。よろしく願い申し上げます。本日、162名の新1年生を迎え、全校児童977名、教職員51名で平成27年度がスタートしました。お子様のご入学・ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、4月は緊張と希望の月です。仲間や先輩、お世話になった方々とのお別れがある一方で新しい出会いがあります。目標を立て、自分なりに努力をしてみようと気持ちを新たにすることもあります。子どもたちには、ぜひいろいろなことにチャレンジし、自分にはこんなすてきなところがあるんだと新しい自分を発見したり、仲間とかかわる中で仲間がいることの幸せやわかり合える喜びを味わったりする、このような学校生活を、子どもたちが作りだしていけるとよいと思っています。

原小学校では今年度も、学校教育目標「心ゆたかに、ともに学ぶ子」を掲げ、子どもたちの健全育成をめざして教育活動に取り組んでまいります。目標に向けて様々な方策や手立てを講じていかなければなりません。次のことを大切にしたいと考えています。

◆「一人ひとりが大切にされる学校」

子どもたちは様々な個性をもっています。学校生活で自尊感情をもち、お互いを認め合い、力を合わせていこうとする子どもを育てていくためには、一人ひとりにしっかりと向き合い、子どもの思いや願いに寄り添った支援や指導を進めていくことが大切であると考えています。子どもたちのよさを伸ばし、毎日学校に来るのが楽しい！と思えるような教育を進めていきたいと思っています。

◆「チーム原」

学校では、一人ひとりの子どもを様々な教職員で見守り、育てていきます。子どもと担任という関係だけでなく全教職員で共通理解を図りながら、成長を支援していきたいと思えます。毎日の学校生活では、楽しいことばかりではなく、時には心配なこともあるかもしれません。そのような時にも、担任はもちろん、学年主任や養護教諭、児童支援専任や学校カウンセラーなど他の教職員にもご相談いただけたらと思えます。

子どもたちの輝く笑顔のために「全児童を全教職員で育む」という姿勢で「チーム原」、教職員一同一丸となって取り組みます。

保護者の皆様、まちの皆様、今年度も変わらぬご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

原小だより



横浜市立原小学校

平成27年 4月30日

5月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/>

心と心をつなぐ ～あ・い・さ・つ～

校長 桃井 陽子

青葉若葉が目まぶしく、躍動感あふれる季節を迎えています。正に伸びようとする子どもたちの姿そのものです。休み時間ともなると校庭から子どもたちの元気な声が校長室まで聞こえてきます。探検ボードを抱えて春の植物や生き物を観察する4年生、1年生とペアになって手をつなぎながら学校を案内する2年生、原小オリンピックに向けた活動も始まっています。風薫る5月の始まりです。

原小学校に着任してうれしかったことの一つに、気持ちのよいあいさつができる子が多いことがあげられます。「おはようございます。」「こんにちは。」「さようなら。」と目と目を合わせてあいさつをしてくれます。少し離れたところから「校長先生おはようございます。」と言ってくれた子がいて「遠くからありがとう。おはよう。」思わず私も近づきながらあいさつを返したり、昇降口を黙々と掃除している6年生に「熱心ですね。」と褒めると「ありがとうございます。」という言葉が返ってきたり……。あいさつは心と心をつなぐもの、人と人とが心を通わず、コミュニケーションの第一歩です。『あいさつで笑顔の花を咲かせよう』原小学校の体育館に初めて入った時に、この言葉が目飛び込んできました。いつからこの言葉が掲げられているかは、私にはまだわからないのですが、原小学校がずっとあいさつを大切にしてくれていることがわかります。すてきな言葉です。

私は「あいさつ」の話を子どもたちにする時は、折に触れて次のような内容を話すことにしています。

「あいさつ」の「あ」は、明るくの「あ」です。する方もされる方も明るいあいさつは心が元気になるように感じます。「い」はいつもの「い」です。いつもあいさつするから親しみが生まれるのです。そうすると自然にあいさつする相手のことを、大切にしようという気持ちがでできます。お互いに相手を思いやる気持ちが生まれるのです。「さ」は先にの「さ」です。相手にあいさつされたからあいさつを返すのではなく、こちらからしようという意味です。出会った時に相手が先にあいさつしてくれると、うれしい気持ちになります。そして「つ」は伝えよう心の「つ」です。たとえば「おはようございます。」とあいさつするとき「今日もいい一日にしようね。」「今日もなかよくいろいろなことをがんばろうね。」という気持ちがこもっていて、それが伝わると心と心がつながりますね。

そうです。「あいさつ」は心と心をつなぐ言葉なのです。

原小では、明るいあいさつがたくさん交わされています。心と心をつなぐあいさつを、原の子がさらに自然にできるようになり、「まち」の中でも相手に関心を寄せながら、その場に応じたあいさつができるようになることを期待しています。そして原の子が仲間や「まち」の方々とつながっているという実感や安心感をもち、学校に、この「まち」に、より一層親しみをもてるように、これからも「明るく、いつも、先に、伝えよう心」のあいさつをしよう！と、子どもたちに呼びかけたいと思います。



一生懸命がかっこいい

～原小オリンピックに寄せて～

校長 桃井 陽子

5月のある日、花ボランティアの皆様が集まり花の植え替えをされていました。円形花壇や鶏小屋わきの花壇、職員玄関前の花壇がマリーゴールドや色とりどりの日々草、ハート形に植えられたミニカーネーションなどの花々で見事に飾られました。子どもたちの過ごす環境を季節の花でいっぱいになりたいという思いを、本当にありがたいことと感じます。その花壇の周りを3年生が育てているハウセンカの植木鉢が囲み、またその近くには2年生が育てているミニトマトやオクラ、ピーマンやナスの植木鉢が並んでいます。1年生が育てているアサガオもあって、朝は栽培委員会も含めて水やりの子どもたちでとても賑やかです。晴れが続くこの頃は、「水やり、熱心ですね。」「水がほしい、ほしいって言ってる。」こんな会話をしています。



さて今、原小学校は、原小オリンピックを間近に控え、その熱気で日々あふれています。3年生と5年生が4クラスになったため、今年度から赤と白の2色対抗の原小オリンピックとなりますが、『みんなで団結し、笑顔あふれる原オリにしよう!』のスローガンのもと、子どもたち一人ひとり、それぞれの役割の中で一生懸命がんばっています。

応援練習が始まった頃、2色の応援の声がペア学年の教室に響いていました。応援団を中心にして、応援の仕方を教える姿も真剣そのもので素晴らしいと感じましたが、応援の練習が終わった後、ペア学年の上の学年の子どもが下の学年の子どもを教室まで静かに一列に並んで送る姿の中に、思いやりの心の育ちを感じうれしくなりました。28日の全体練習では、応援団が子どもたちの前に並び団長を中心にして、赤白、500人ずつの応援の声が響き、そして、1000人の声の響きとなり、大迫力でした。応援団のチームワークと渾身の応援は、活気に満ち、全校を熱く盛り上げています。

各学年の自分たちの演技をより高めるための練習もがんばっています。曲をとらえてリズムにのって楽しく動くこと、隊形移動を覚えること、仲間を意識してそろえること、一杯杯体を動かしてダイナミックに表現すること・・・。

全力で走る。腕を大きく振って、走り抜けて。リレーでは、バトンをつないで・・・。リレーの練習を見ていると、バトンを受け取り、またつなぎ、その懸命な走りをしている子どもたちを見て、「がんばれ!」と思わず声援を送ってしまいます。

また5・6年の子どもは、17のオリンピック実行委員会を構成し、PR活動から応援活動まで当日に向けて準備と練習をがんばっています。

原小オリンピック本番は、たった一日ですが、本番に向けて練習や準備に一生懸命取り組むことで、子どもたちはたくさんの力を身につけ、感性を磨いていきます。そしてやるべきことをまじめにがんばる、一生懸命取り組むからこそその、達成感、充実感、連帯感、自己有用感など、いろいろな思いが子どもたちの自尊感情を高めていきます。子どもたちのその時々やるべきことをやる姿、一生懸命がかっこいいということ、そして、一生懸命がんばっている仲間を見て、すてきだね、がんばっているねと認め合える子どもたちになってほしいと思います。原小オリンピックは学校教育目標「心ゆたかに、ともに学ぶ子」をめざす本校の特色ある活動の大きな取組です。

保護者の皆様には、原小オリンピックに向けての毎日のご支援をありがとうございます。当日は地域の皆様、保護者の皆様、どうか多くの温かい励ましをいただけますようよろしくお願いいたします。



イマジネーションを広げよう

副校長 佐藤 恵子

梅雨空の上では、来たるべき季節に向けて、もう太陽が夏の準備をして待っています。今日も、晴れ間が広がり、プール開きの日からどの学年も水泳学習を実施することができています。

早いもので平成27年も半分が終わろうとしています。原小の子どもたちの毎日は、いろいろなことが起きています。授業中に、休み時間に、登下校に、放課後に、友だちや先生方、保護者や地域の方々等と関わり合う中で、言葉を交わし共に活動し合い、成功や失敗体験を重ねていきます。

もちろん、一人ひとり個性をもった人間同士、トラブルや問題が生じるのは、当たり前のことです。その問題の解決や更なる成長には、イマジネーションが大切な役割を果たします。

イマジネーションには、「想像する・創造する」という意味があります。

まず、子どもたちとトラブルの原因や様子を話し合う時、「相手の思いや立場を考えてみてごらん。」と尋ねると、「嫌だったんだろう」「うれしいと感じているだろう」と考えることはできます。

しかし、日々相手の思いを想像するだけで終わりにするのではなく、自分事として次によりよい行動につなげていけるようになってほしいものです。それが、“失敗は成功のもと”の実践となりますね。

“この前、こうやって失敗したから、次は前回の失敗の原因を考え、こうやったらどうだろう”と想像してみると、工夫してみよう、気を付けてみようと取り組むことができます。

このように、イマジネーションは経験に意味をもたせ、知識に理解を深めるための助けとなります。

もちろん、学習過程でも、大切な力となってきます。既習した学習内容から、イマジネーションを働かせ、新しい知識を楽しく生み出すことができます。原小学校の重点研究では、算数の学習を通して見通しをもって学習課題に取り組む態度や思考力や判断力を育てていこうと取り組んでいます。

また、安全に生活するためにも、イマジネーションは大切です。“もし、こうやったら手を切りそうだ、ここに物を置いたら落ちてしまいそうだ”等、

大きな怪我や破損を最低限避けることができるでしょう。

人を優しく思いやり、前向きに学習に取り組み、安全に楽しく生活するために、ここぞというポイントでイマジネーションを大いに発揮して行ってほしいものです。

7月、暑い夏が始まりますが、子どもたちも向日葵のように、ぐんぐん成長する季節です。

健康に気を付け、夏休み前元気に生活できるように、

7月もどうぞよろしく申し上げます





夏休みを楽しく

～つながる「まち」、つながる「顔」、つながる「心」～

校長 桃井 陽子

7月のロング昼休み。強い日差しが降り注ぐ中、運動場から子どもたちの声が響きます。なわとび、ボール遊び、おいかけっこ…額に汗を光らせながら、暑さに負けないで元気に遊ぶ子どもたち。また、子どもたちが育てている植物の植木鉢を家に持ち帰ってくださる保護者の姿もあり、暑い中、ありがたいことと感じる今日この頃です。いよいよ夏休みが近づいてきました。

4日(土)は原小の3・4・5年生が灯籠の絵をかいて参加している「灯籠祭り」でした。「灯籠祭り」は、灯籠の明かりをめざして、大人も子どももみんながつながる手作りのふるさとの祭りであるとともに、東日本大震災被災地の復興を願う催しでもあり、大変貴重な祭りであると思えました。灯籠の明かりの路をたどっていくと長屋門公園入口に広がるたくさんのキャンドルが現れ、その幻想的な美しさに、しばし足を止め見入ってしまいました。そして向原第二公園に放射状に飾られたたくさんの灯籠の温かい明かりの美しさは筆舌に表せないほど見事でした。「ぼくの(絵が貼ってある)灯籠が、あった！」自分の絵が貼ってある灯籠はどこか、あちらこちらで一つ一つたどって探す家族の姿もまた、ほのぼのと、心がほっこりと温かくなりました。



5日(日)は阿久和南部地区の「社会を明るくする運動」の催しが原小で行われました。子どもたちは未来の宝、やがて社会を担っていく一人ひとりです。子どもたちがどの子も夢をもって、健康で明るくたくましく成長していくことを願うとき、「青少年を、明るく、正しく導こう！」という健全育成をめざした社明運動の取組に、大変感銘を覚えます。それも65回目の開催ということで、長きにわたる地域の思いを感じました。その中で「よこはま子ども平和スピーチコンテスト」の本校の代表だった6年生のKさんが、社明運動作文優秀作品披露5名の一人としてスピーチし、緊張しながらも自分の思いをしっかりと口調で伝えることができました。5名のスピーチは会場にいた全ての人を感動させるに十分、自分の考えをもち希望にあふれる青少年の姿でした。

19日(日)は「まち」のお祭り、「南部祭り」。原小では、鳴子踊りやソーラン節に出る子どもたちが練習をがんばり、はりきっています。当日は思いっきり踊って楽しんでほしいと思います。そして26日(日)はデイキャンプ。こうした地域の行事にふれ、改めて子どもたちを見守り育てているのは、ふるさとであるこの「まち」の日頃からの見守りや様々な取組を通して、子どもたちの居場所を作り、つながりを作っていたいただいているおかげだと実感しています。

子どもたちが楽しみにしている夏休み。およそ一ヶ月の間、子どもたちが家庭や地域に戻っていきます。ぜひ、地域の行事等に参加したり、普段の生活ではできないような体験や、何か興味のあることに継続して取り組んだりして、夏休みを楽しく過ごし、一回りも二回りも成長した姿を見せてくれることを楽しみにしています。4月からの地域の皆様や保護者の皆様のご理解やご協力に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、原小学校では夏休み期間中、給水管直結工事が行われます。これまでは受水槽に一旦ためられた水道水が供給されたのに対し、水道管から直接水が供給されるようになります。この工事に際し、地域の皆様や学校開放関係など様々な方々にご迷惑をおかけし、申し訳ございませんが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。